

20220823

アイセルシュラホール
観光拠点化基本構想（案）

令和 4 年

藤井寺市

作成：株式会社スタジオ三十三

第1章 アイセルシュラホール活用事業の経緯と目的	1
1-1 経緯と目的	1
第2章 現状と課題	2
2-1 はじめに	2
2-2 藤井寺市の基本情報	2
2-3 藤井寺市内の展示施設及び遺跡分布の現状	8
2-4 アイセルシュラホールの現状	11
2-5 課題	15
第3章 基本理念と方針	17
3-1 基本理念(仮)	17
3-2 方針	20
第4章 必要機能と内容	000
4-1 観光案内機能	000
4-2 文化財展示(重要文化財含む)	000
4-3 世界遺産ガイダンス機能	000
第5章 ゾーニング	000
第6章 観光案内計画	000
第7章 文化財展示計画	000
第8章 周辺エリアを含むサイン計画	000
第9章 概算設計費用	000
第10章 イメージ図	000
第11章 今後のスケジュール	000

第1章 アイセルシュラホール活用事業の経緯と目的

1-1 経緯と目的

1-1-1 経緯

平成6年7月に開設された藤井寺市立生涯学習センター（以下、アイセルシュラホール）は、生涯学習機能や公民館機能を有する教育施設である。また、船形埴輪と修羅をモチーフとした建物外観から本市のシンボル施設として長年にわたって存在感を示してきた。

令和元年7月に「百舌鳥・古市古墳群」の世界文化遺産登録が決定したことを踏まえ、翌8月に庁内特命チームである「アイセルシュラホール活用検討チーム（以下、チームK）」が発足した。現状の教育施設としての位置づけのみならず、古市古墳群周遊ルート上のシンボリック施設としての活用を検討し、市長に提案書を提出した。

令和2・3年度は新型コロナウイルスの影響により検討は一部中断にはなったが、チームKの提案のうち、短期方策である文化財整理室の移設とフォトスポットの設置を行った。

1-1-2 目的

上記の経緯を踏まえ、古市古墳群周遊ルート上の最も主要な観光拠点（仮：古墳ミュージアム）として活用するにあたり、有識者や関係部署職員による検討会議を踏まえ、アイセルシュラホールの観光拠点施設としてのコンセプトや必要な機能を取りまとめることを目的として、アイセルシュラホール観光拠点化基本構想（以下、基本構想）を作成する。

なお、基本構想のアイセルシュラホールにおける対象エリアは1階・2階・屋外である。また、令和7年の大阪・関西万博に合わせてリニューアルオープンを目指すため、本年度を基本構想、令和5年度に基本設計と実施設計、令和6年度に改修・施工の予定である。

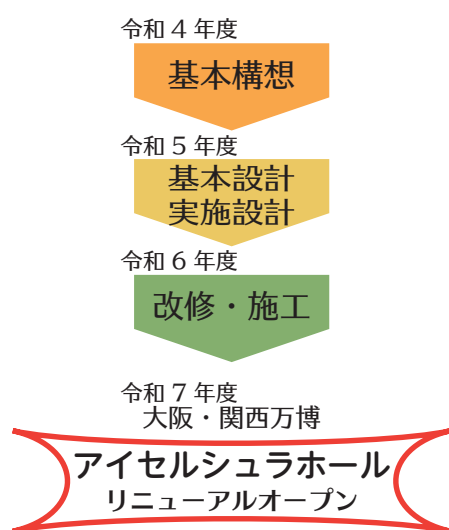


図 1-1 事業計画

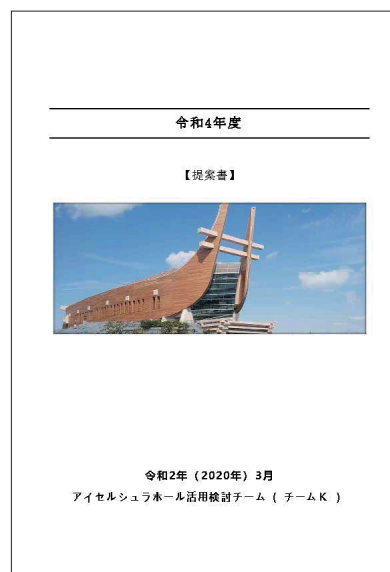


図 1-2 チームK 提案書

第2章 現状と課題

2-1 はじめに

ここでは、アイセルシュラホールの現状と課題に入る前に、本施設がある藤井寺市の基本情報と、藤井寺市内の展示施設及び遺跡分布、アイセルシュラホールの現状を記す。また、世界遺産 百舌鳥・古市古墳群の世界遺産としての価値を記し、それらを踏まえた上で課題を示す。

2-2 藤井寺市の基本情報

2-2-1 立地

藤井寺市は大阪平野の南東部に位置し、奈良時代には河内国府が置かれた河内の中心地である。市域面積 8.89km²で、大阪府下で最も小さい市であるとともに全国でも5番目に小さいが、人口密度は府下で9番目に多い。

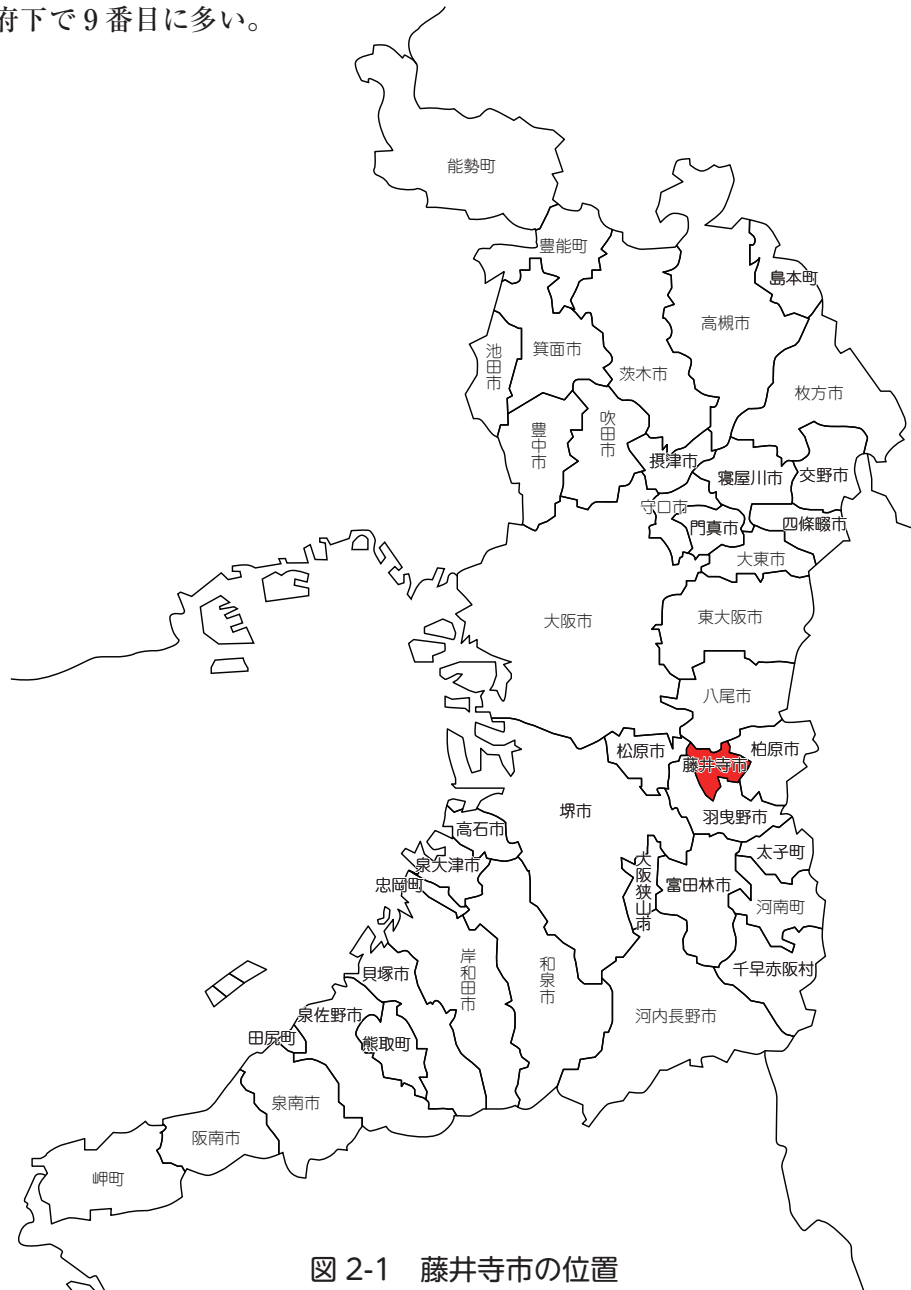


図 2-1 藤井寺市の位置

2-2-2 交通

コンパクトな市の中には、近畿日本鉄道南大阪線の3駅が設置されている。藤井寺駅から大阪阿部野橋駅までは十数分の利用時間で結ばれ、大阪の都心部とのアクセスは良好である。駅の乗降者数は近鉄南大阪線の中で大阪阿部野橋駅に次いで2番目の乗降者数である。なお、近畿日本鉄道によると、令和3年度の一日常乗者数は大阪阿部野橋駅が134,925人、藤井寺駅が31,766人である。

また、市域を通る幹線道路は、西名阪自動車道の藤井寺ICのほか、国道170号（大阪外環状線）をはじめ、府道「堺大和高田線」などがある。また、空路は、大阪国際空港（伊丹空港）から高速バスと鉄道を利用して1時間ほど、関西国際空港からは高速バスと鉄道を利用して1時間15分ほどの距離となる。

高いアクセス性と住宅都市としてのイメージが定着している。

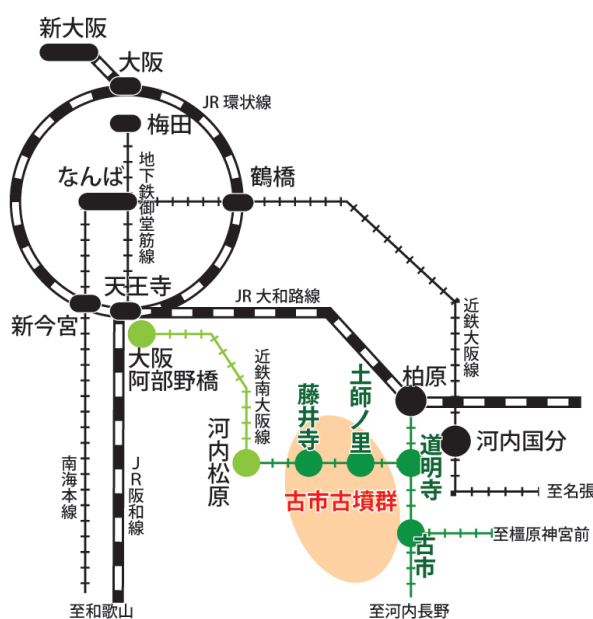


図 2-2 広域鉄道路線網図

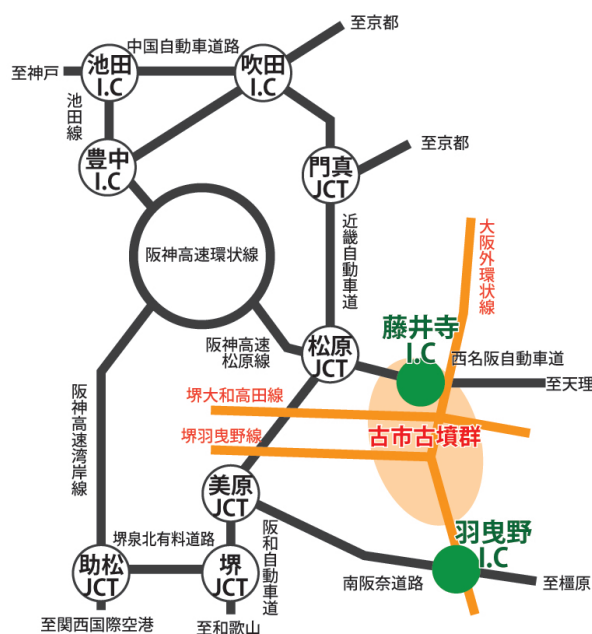
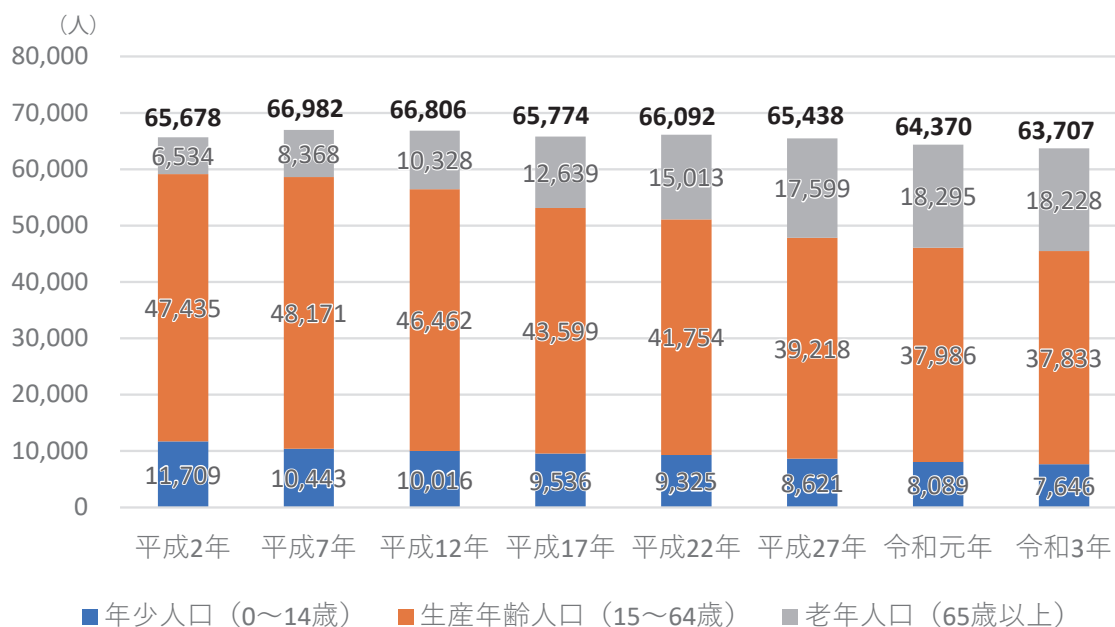


図 2-3 広域道路路線網図

2-2-3 人口

本市の人口は令和3年の時点で63,707人であるが、平成7年の66,988人をピークにほぼ横ばいからやや減少の傾向である。また、少子高齢化が進んでおり、年齢3区分別にみると、年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）はともに減少、老年人口（65歳以上）は増加し、全国と同様の少子高齢化の傾向となっており、今後も総人口の減少が予測される。



(人)

	年少人口 (0～14歳)	生産年齢人口 (15～64歳)	老年人口 (65歳以上)	総合計
平成2年	11,709	47,435	6,534	65,678
平成7年	10,443	48,171	8,368	66,982
平成12年	10,016	46,462	10,328	66,806
平成17年	9,536	43,599	12,639	65,774
平成22年	9,325	41,754	15,013	66,092
平成27年	8,621	39,218	17,599	65,438
令和元年	8,089	37,986	18,295	64,370
令和3年	7,646	37,833	18,228	63,707

(※令和元年までは国勢調査、令和3年は藤井寺市のデータを引用)

図 2-4 藤井寺市の人口推移

2-2-4 公共施設の立地状況

藤井寺駅から半径1km圏内に市役所、市民総合会館、そしてアイセルシュラホールがある。土師ノ里駅と道明寺駅周辺には市民病院、福祉施設、市役所支所が立地している。また、国道170号線沿いに市立図書館、市民総合体育館がある。

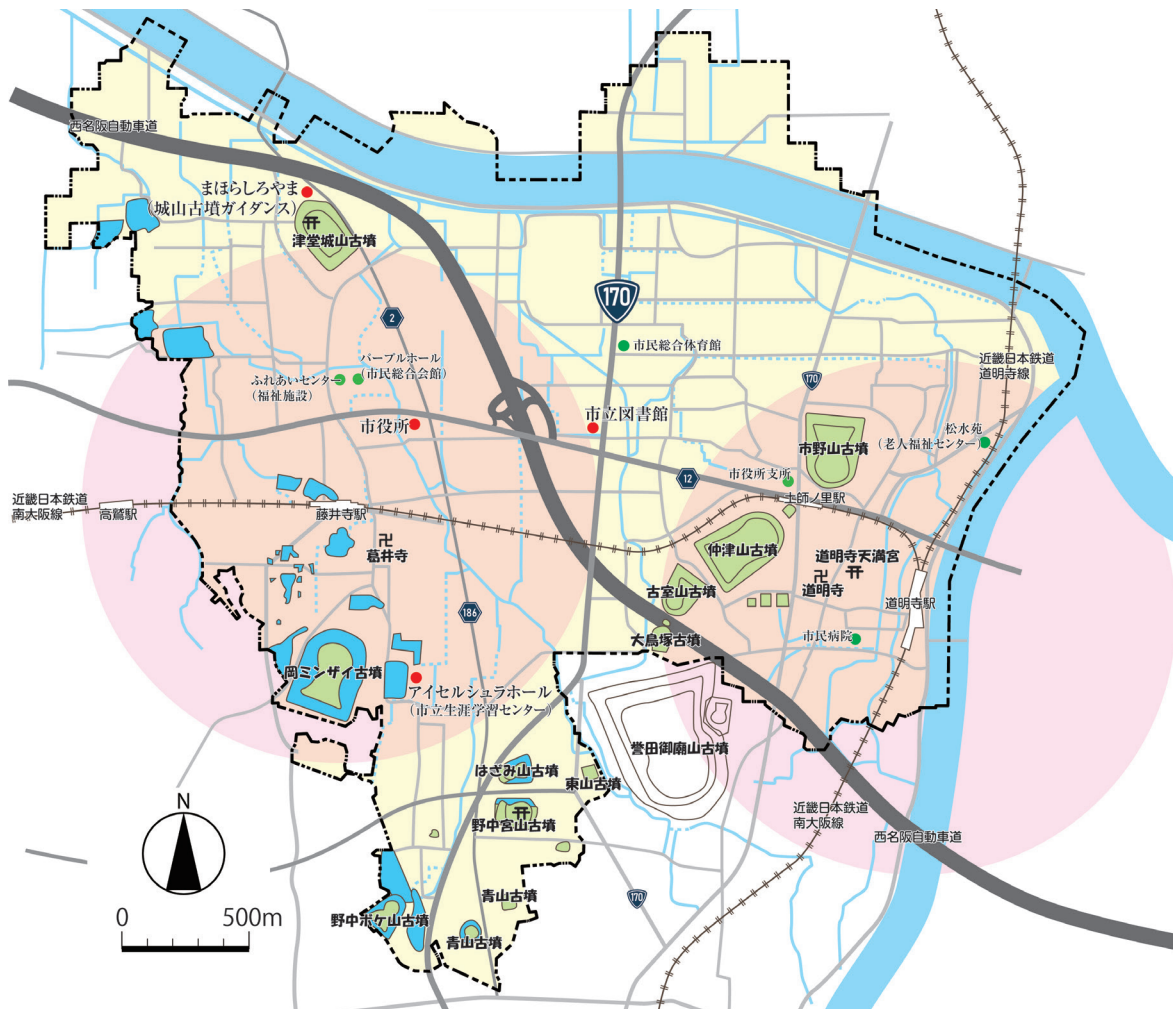


図 2-5 公共施設の立地状況

2-2-5 特産・名産物などの藤井寺ゆかりの品

藤井寺市の特産・名産物などゆかりの品としては、いちじく・小山うちわ・道明寺^{ほせい}糯 等がある。



図 2-6 いちじく



図 2-8 道明寺糯



図 2-7 小山うちわ

2-2-6 ご当地キャラクター まなりくん

藤井寺市の公式キャラクター「まなりくん」は、奈良時代に阿倍仲麻呂らと唐へ渡った、藤井寺市出身と云われる遣唐留学生「井真成（いのまなり）」をモデルとしたキャラクターで、平成 17 年に一般公募によって選ばれた。現在、故郷である藤井寺市を中心に、さまざまなイベントで活躍中である。

井真成とは、平成 16 年に中国の西安市郊外で石製の墓誌（亡くなった人の経歴などを刻んで墓に埋葬したもの）が見つかり、その存在が確認された人物である。



図 2-8 藤井寺市公式キャラクター「まなりくん」

2-2-7 その他 (ハザードマップ)

下記ハザードマップによると、アイセルシュラホールは、浸水区域外である。市内北部に流れる大和川は、大阪府内で2番目に大きな川であり、大和川に近い地域では、広範囲で浸水想定区域となっている。

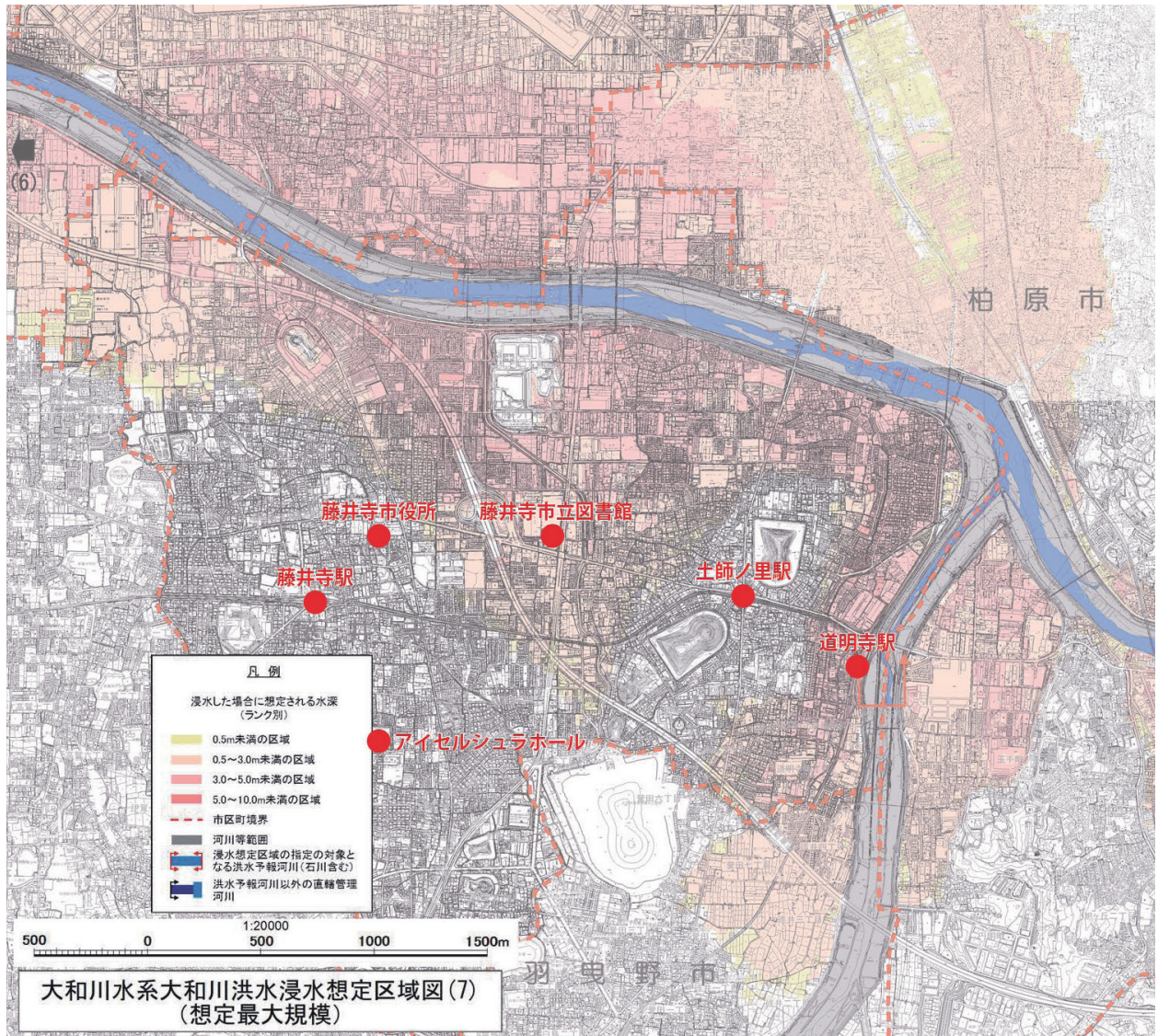


図 2-9 ハザードマップ
(引用元：大和川水系大和川洪水浸水想定区域図(7)(想定最大規模)より)

2-3 藤井寺市内の展示施設及び遺跡分布の現状

藤井寺市内には、古市古墳群に関するガイダンス施設・展示施設がある。

史跡城山古墳ガイダンス施設「まほらしろやま」は、展示室で津堂城山古墳を中心とした展示を行っている。同施設は、来訪者の古市古墳群見学拠点の一つとなっている。

また、岡ミサンザイ古墳（仲哀天皇陵古墳）に近い、アイセルシュラホールの2階では、古市古墳群の展示とともに、藤井寺市の通史展示も行っている。

藤井寺市立図書館1階には展示室があり、重要文化財である大小2つの修羅の内、小さいほうの実物を展示している。また、大きいほうの修羅のレプリカや、古墳の築造風景をあらわしたジオラマを展示している。

史跡城山古墳ガイダンス施設「まほらしろやま」

「まほらしろやま」では、津堂城山古墳から出土した埴輪や、津堂遺跡から出土した同時代の須恵器や土師器を展示している。敷地内には、明治末年に墳丘後円部頂で見つかった長持形石棺のレプリカを展示している。



図 2-10 まほらしろやま建物外観



図 2-11 まほらしろやま室内展示



図 2-12 長持形石棺（レプリカ）

アイセルシュラホール 2 階歴史展示ゾーン

古墳時代、古市古墳群をテーマとした展示ゾーンでは、津堂城山古墳出土水鳥形埴輪、西墓山古墳鉄器埋納施設、土師の里 8 号墳の主体部に使われた円筒埴輪棺など、古市古墳群を語る上で欠かすことのできない実物の考古資料を展示している。



図 2-13 歴史展示コーナー（通史展示）



図 2-14 水鳥形埴輪（重要文化財）



図 2-15 西墓山古墳鉄器埋納施設



図 2-16 土師の里 8 号墳の主体部に使われた円筒埴輪棺

藤井寺市立図書館 1 階展示室

三ツ塚古墳の濠から出土した、大小 2 つの修羅（いずれも重要文化財）の内、小さいほうの実物を展示している。また、大きいほうの修羅のレプリカ、古墳の築造風景をあらわしたジオラマを展示している。



図 2-17 修羅（小）（実物、重要文化財）



図 2-18 修羅（大）（レプリカ）



図 2-19 古墳の築造風景をあらわしたジオラマ

藤井寺市内の指定文化財 (A ~ Y 他分布図対照)

● 国指定文化財

国宝	A	乾漆 千手観音坐像 (本堂安置)	彫刻	葛井寺	
	B	木造 十一面観音立像 (本堂安置)	彫刻	道明寺	
	C	伝菅公遺品	銀装革帯	工芸品	道明寺天満宮
			玳瑁装牙櫛		
			牙笏		
			犀角柄刀子		
伯牙弹琴鏡					
青白磁円硯					
重要文化財	D	木造 十一面観音立像 (伝菅原道真作)	彫刻	道明寺	
	E	木造 聖徳太子立像 太子像胎内一括品	彫刻	道明寺	
	F	笹散母絵鏡匣 笹散雙雀鏡 (鏡面に金泥の種子あり)	工芸品	道明寺天満宮	
	G	葛井寺四脚門 (切妻造、本瓦葺)	建造物	葛井寺	
	H	水鳥形埴輪 (城山古墳出土)	考古資料	葛井寺	
史跡	J	古市古墳群	古墳		
	I-1	古室山古墳			
	I-2	赤面山古墳			
	I-3	大鳥塚古墳			
	I-4	助太山古墳			
	I-5	鍋塚古墳			
	I-6	城山古墳			
	I-7	墓山古墳			
	I-8	野中古墳			
	I-9	鉢塚古墳			
	I-10	はざみ山古墳			
	I-11	青山古墳			
	I-12	蕃所山古墳			
	I-13	稲荷塚古墳			
	I-14	東山古墳			
	I-15	割塚古墳			
	I-16	唐櫃山古墳			
	I-17	松川塚古墳			
	I-18	浄元寺山古墳			
	I-19	応神天皇陵古墳外濠外堤			
	I-20	仲姫命陵古墳周堤			

■ 大阪府指定文化財

K	石造 燈籠	工芸品	葛井寺
L	葛井寺金銅宝塔	工芸品	葛井寺
M	脇差 銘秀光	工芸品	道明寺天満宮
N	長持山古墳石棺	考古資料	藤井寺市
O	北岡遺跡出土 金銅五鈎杆	考古資料	藤井寺市

■ 藤井寺市指定文化財

P	天神縁起絵扇面貼交屏風	絵画	道明寺天満宮
Q	聖観音菩薩立像	彫刻	葛井寺
R	地藏菩薩立像	彫刻	葛井寺
S	阿弥陀如来及び二十五菩薩像	彫刻	葛井寺
T	石燈籠 康元二年銘	工芸品	道明寺天満宮
U	石燈籠 建徳三年銘	工芸品	黒田神社
V	国府遺跡出土 玊状耳飾り	考古資料	道明寺天満宮
W	国府遺跡出土 装身具	考古資料	藤井寺市
X	国府遺跡出土 玊状耳飾り及び縄文土器	考古資料	藤井寺市
Y	唐櫃山古墳石棺	考古資料	藤井寺市

▲ 国登録有形文化財

▲1	藤本家住宅
▲2	藤野家住宅
▲3	玉手橋
▲4	伴林氏神社

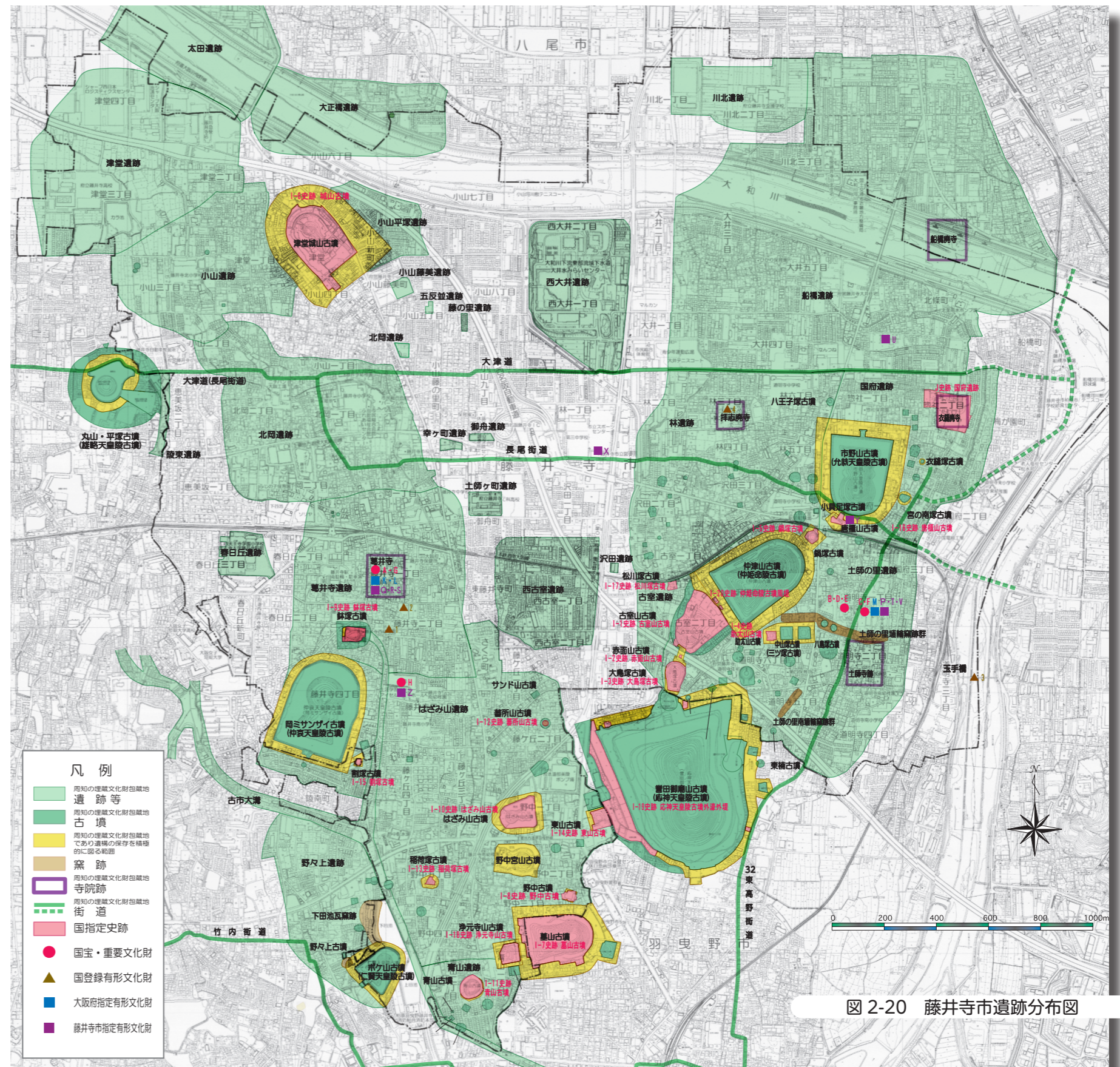


図 2-20 藤井寺市遺跡分布図

2-4 アイセルシュラホールの現状

2-4-1 施設概要

施設名称	藤井寺市立生涯学習センター（愛称：アイセル シュラ ホール）
開設年月	平成6年7月
敷地・延床面積	敷地面積：5,413.00㎡ 延床面積：4,554.19㎡
設置根拠	藤井寺市立生涯学習センター条例
開館時間	9時30分～21時30分
休館日	月曜日（祝日にあたる場合は翌日）、年末年始

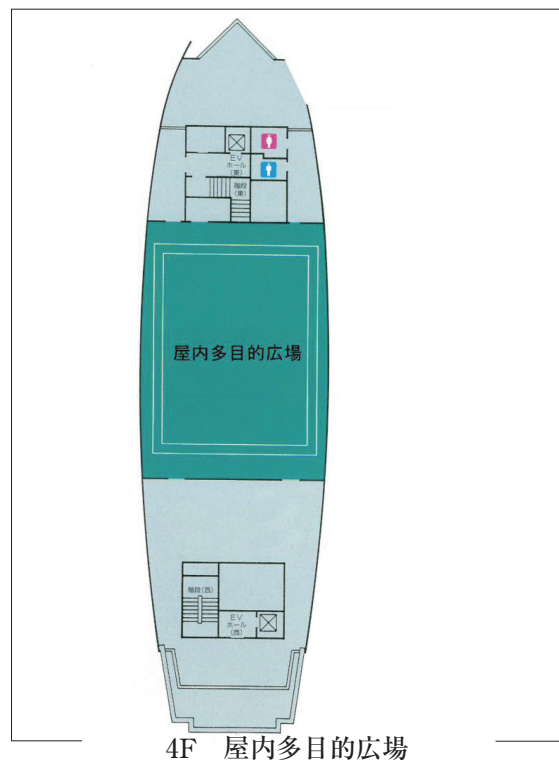
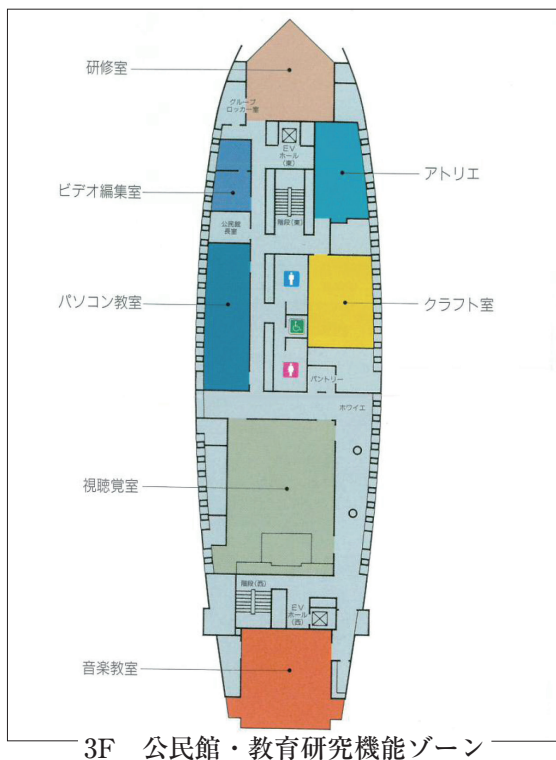
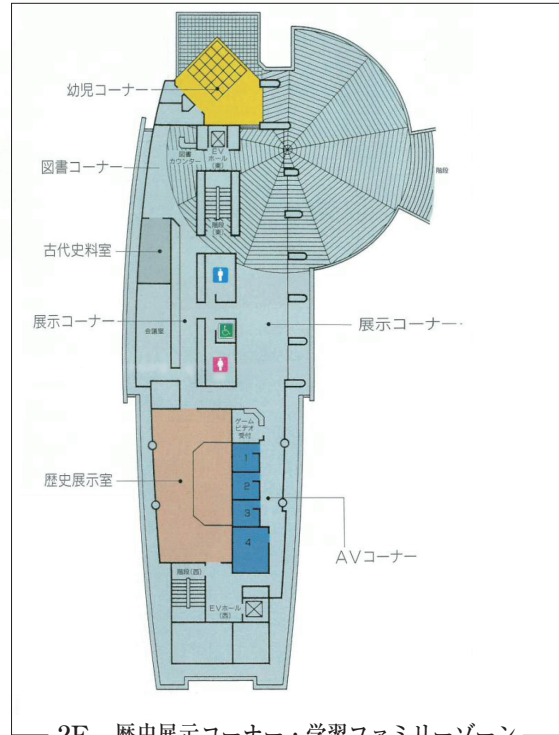
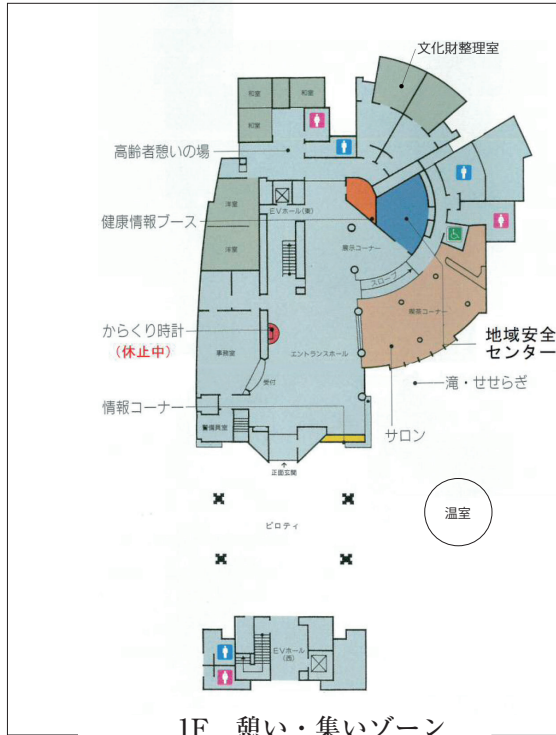


図 2-21 施設配置図

2-4-2 活動状況

世代を問わず学び、遊び、交流しあえる、個性豊かな生涯学習活動や公民館活動を支援できる施設として多くの方に利用されており、各階では様々な活動が行われている。

1階

憩い・集いのゾーン

エントランスホール

住民票等交付コーナー



図 2-22 エントランスホール

展示コーナー

自主学習グループの方などが、絵画、書作、手芸、クラフトなどの作品をアピールする展示コーナーが積極的に活用されている。

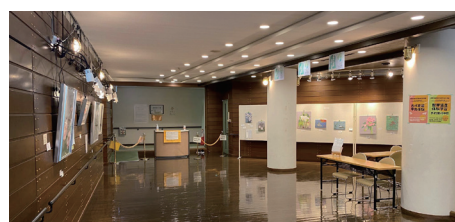


図 2-23 展示コーナー

表 1 自主学習グループの数 (人)

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
自主学習グループ数	71	72	66	56	58	57

高齢者憩いの場 (和室・洋室)

藤井寺市内の 60 歳以上の方が登録制で利用できる。将棋や囲碁など、談笑の場となっている。



図 2-24 高齢者憩いの場 (和室)

喫茶コーナー

1階サロンを利用して、ボランティアスタッフによる喫茶サービスの運営を行っていたが喫茶サービスは令和 4 年 3 月末で終了。

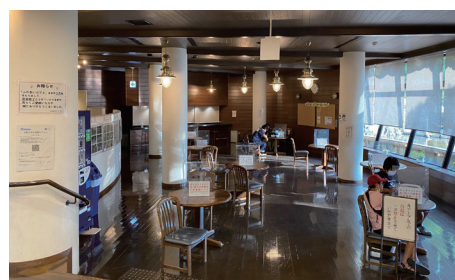


図 2-25 喫茶コーナー

屋外

せせらぎ・噴水

夏期の日中に実施しており、子ども連れの家族を中心に賑わっている。



図 2-26 せせらぎ・噴水

表 2 せせらぎ・噴水の実施日数と利用者数及び一日あたりの利用者数（人）

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
実施日数	47	50	26	53	53	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
利用者数	2,135	2,498	1,698	2,437	1,988	
一日当たりの利用者数	45	49	65	46	38	

2階

歴史展示ゾーン

藤井寺市内の遺跡から見つかったさまざまな遺物を展示し、旧石器時代から奈良時代までの変遷を学ぶことができる。歴史展示室では「倭の五王の時代」をテーマにした遺物（鉄剣、武具、埴輪）などを展示している。



図 2-27 歴史展示ゾーン

学習ファミリーゾーン

図書の閲覧、貸出を行う図書コーナー、子どもたちの遊び場として親子でくつろげる幼児コーナー、ビデオやDVDが楽しめるAVコーナーが利用されている。



図 2-28 図書コーナー

3階

公民館・教育研究機能ゾーン

視聴覚室・クラフト室・アトリエ・音楽教室・研修室・パソコン教室などがあり、事前にグループ登録した自主学習グループが自発的に活動している。



図 2-29 クラフト室

4階

屋内多目的広場

グランドゴルフ、ゲートボール、ヨガ、太極拳などの軽スポーツが行われている。



図 2-30 屋内多目的広場

2-4-3 利用状況

平成 28 ～ 30 年度までの諸室利用状況は下記のとおりである。

表 3 諸室利用者数（人）

階数	室名	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
1 階	高齢者憩いの場	9,030	10,255	9,697	8,295	1,271	1,893
	喫茶コーナー	30,891	28,496	26,844	23,037	12,634	11,401
2 階	A V コーナー	20,172	21,413	19,209	20,520	8,812	9,629
	図書コーナー	22,313	21,705	20,722	18,930	12,961	13,516
	会議室	1,716	2,145	2,432	2,610	1,794	1,924
3 階	研究室	4,716	4,669	4,093	3,334	531	1,115
	パソコン教室	272	483	654	1,339	876	618
	アトリエ	3,525	3,316	2,752	2,058	668	725
	クラフト室	2,145	1,909	1,666	1,221	874	897
	音楽教室	7,020	7,701	7,799	7,115	4,030	5,161
	視聴覚室	9,624	9,619	8,326	8,544	1,730	3,200
4 階	屋内多目的広場	14,625	15,218	14,066	13,455	9,076	9,900
合計		126,049	126,929	118,260	110,458	55,257	59,979

※令和 2・3 年度は休館期間あり

2-5 課題

アイセルシュラホール活用検討における課題は以下のとおりである。これらの課題を踏まえ、事業活動や施設、展示、管理運営等の各計画を検討する。

2-5-1 建物面

全体

施設と設備の老朽化等

外壁改修は行ったが、冷暖房や地下配管など、建物設備の老朽化が見受けられる。

※令和2年度 ESCO 事業により空調、照明 LED、受電設備を改修済。

施設の建築上、電機システム上の問題

リニューアルするにあたり、柱や壁の取り外し等の大規模な改修が難しいため、施設内の空間・内装の見せ方で変化をつけることが望ましい。

また、中央監視室の移設・修繕には多くの費用が発生する。

1階

憩い・集いのゾーン

施設内は元々暖色系の落ち着いた雰囲気だが、観光拠点として考えた場合、活気が感じられるような明るい空間・内装が求められる。

からくり時計

現在は故障中のため、今後の活用が未定である。

喫茶コーナー

飲食店を誘致等するには、厨房施設が簡素である。

2階

展示コーナー（南側）

建物の南側に位置し、また一面が窓ガラスで日光が当たるため、展示資料への配慮が必要である。

歴史展示室

展示スペースが限られるとともに大型遺物の移動に困難が伴うため、常設展示の内容は恒常的である。展示のリニューアルが求められる。

屋外

温室

設備故障のため現在は使われていない。また、全面ガラス張り仕様のため、現状のままでは、上記を考慮した別用途の使用が求められる。

駐車場

一般車両は21台（うち身障者用2台）のみで、大型車両（観光バスなど）の停車が困難であり、駐車スペースが限られている。また、生涯学習グループの利用によっては満車になる。周辺道路に関しても道路幅が狭く、大型バスの進入について考慮する余地がある。

2-5-2 運営面

建物の用途に関して

現在は“生涯学習”のための教育施設である。観光等の多面的な活用をする際、制限はあるが、上記を踏まえて用途に関して検討する必要がある。

現在の機能について

貸館業務、公民館機能や一部市民課業務もあり、幅広い年齢層の市民が利用しているため、一部機能を変更する場合は、十分な説明が求められる。

観光案内機能について

商店街内の現観光案内所（ゆめぶらざ）との棲み分けや位置づけの整理が必要である。

2-5-3 その他

市内の展示施設について

市内に古市古墳群関連の展示施設が点在しており、周遊する上で拠点施設を設けることが重要である。

観光案内表記等

藤井寺駅からアイセルシュラホールへ向かう道中に案内板や電柱にサインはあるが、目立ちにくく案内が不十分である。また、アイセルシュラホールから古墳へ向かう際にも同様である。

このため、サインの統一性および観光案内表記を、改めて検討する必要がある。



図 2-31 目立ちにくい案内



図 2-32 電柱のサイン

インバウンド方策

一部のパンフレットやホームページは多語化されているが、多言語での観光案内対応の整備が求められる。

第3章 基本理念と方針

3-1 基本理念

古市古墳群を訪れる方々に世界遺産の価値をきちんと理解してもらえ、「タビマエ」・「タビナカ」・「タビアト」のどのようなシーンにおいても活用される施設かつ、地元の方々にも引き続き愛され、観光で訪れられた方々との交流によりさらに発展的に利用される施設を目指す



世界遺産としての古市古墳群をわかりやすく学べる施設
そこに観光に訪れる人を呼び込んで、観光客も市民も利用する施設



- ①世界遺産百舌鳥・古市古墳群の価値を表現
- ②古墳ミュージアムとして訪れる人が楽しめる施設
- ③市民にとってシンボリックな施設であり、市民がもてなす観光拠点

世界遺産を理解する・学ぶにあたり、世界遺産としての価値を確実に来訪者に伝達し、古市古墳群を一層楽しめる施設＝観光拠点とする。

百舌鳥・古市古墳群は下記の価値により世界遺産に登録されている。

古墳は、列島各地に16万基も存在しているが、その中でも日本古代の古墳文化を代表し、また類まれな物証を提供しているのが、百舌鳥・古市古墳群である。45件の構成資産は、この時代の社会政治的構造、社会的階層差及び高度に洗練された葬送体系を証明している。

百舌鳥・古市古墳群は、古代の東アジアにおける墳墓築造のひとつの典型である。古墳およびその有形な属性である埴輪や濠、葺石を施した幾何学的な段築をもつ墳丘は、この歴史的に重要な時代における社会階層の形成上、顕著な役割を果たした。

以上の価値を支えている3つの要素を具現化し、展示・解説の基本的な軸とする。

属性 a) 密集した多様な古墳

百舌鳥・古市古墳群の2つのエリアに密集する古墳は、多様な墳形と400m以上から20m程度にまでわたる規模のバリエーションを有しており、これらは同地域・同時代に多様な墳墓が営まれた日本列島の古墳の特徴を最も明確に示すものである。

属性 b) 4つの標準化された形式

百舌鳥・古市古墳群の古墳には、前方後円墳・帆立貝形墳・円墳・方墳の4種類がある。これらの形式は、全国各地の古墳の規範となった標準化されたものであり、本資産は古墳の設計や築造技術を牽引する存在である。

属性 c) 入念で独特な葬送儀礼の証左

各古墳の埋葬施設は墳頂から掘りこまれた墓穴の中にしつらえられ、墳丘上面の各所に埴輪や葺石が施されている。墳丘上で葬送儀礼が執り行われ、その舞台として墳丘が飾られたことは日本列島における古墳の大きな特徴であり、百舌鳥・古市古墳群はそれを明確に伝える事例である。



アイセルシュラホール活用事業の方向性

世界遺産 古市古墳群の価値や魅力をアピールし、伝え続けること

アイセルシュラホール活用事業のコンセプト

観光客だけでなく、市民も楽しめる観光拠点となるシンボル施設



3-2 方針

アイセルシュラホールを観光拠点として、「古市古墳群」をはじめ、これまで取り組んできたシティプロモーションと合わせて、藤井寺市の魅力を最大限に発信するために持続的かつ実施可能な活用方針について定めた。

将来展望として、地域の事業者をはじめ、まちづくり協議会、観光協会や大学等を巻き込んで戦略的な商業・観光を中心とするまちづくりを進め、それに基づくシュラホールの活用・運営体制等を検討する。

〈活用案（事務局より）〉

1階：ビジターセンター エントランス

2階：古墳ミュージアム

屋外（ピロティ・温室等）：遊びと学びのコーナー（温室）